

授業科目 日常生活活動学

【担当教員名】 貝淵正人 大山峰生	対象学年	2	対象学科	作業
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	30

【＜概要＞又は＜一般目標：G I O＞】
人間の日常生活の基本として遂行される食事，排泄，整容，更衣，移動などの動作遂行に必要な条件を理解し，日常生活活動（ADL）および生活関連活動（APDL）に関連する基礎的・応用的知識について修得する。

【＜学習目標＞又は＜行動目標：S B O＞】

1. ADLの概念について説明できる。
2. ADL評価の目的を明示し，各評価の特徴を説明することができる。
3. 基本動作の特徴を分析することができる。
4. ADL評価に基づきADLプログラムが立案できる。
5. 代表的疾患に特有なADL評価を説明でき，プログラムを立案施行できる。
6. 福祉用具の役割についての重要性を説明でき，福祉用具を適切に選択することができる
7. 障害者に対する環境整備の方法について説明することができる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	ADLの基本的考え方、領域と分類、ADL支援システム	1	講義 貝淵
2	ADL評価方法	2	講義 濱口
3	動作分析の基礎知識	3	講義 貝淵
4	福祉用具の基礎知識	6	講義 貝淵
5	ADL評価に基づくプログラム立案	4	講義 貝淵
6	起居動作の基本的見方	3	講義 貝淵
7	評価の特徴とADLプログラム立案（片麻痺）1	5	講義 貝淵
8	評価の特徴とADLプログラム立案（片麻痺）2	5	講義 貝淵
9	評価の特徴とADLプログラム立案（脊髄損傷）1	5	講義 濱口
10	評価の特徴とADLプログラム立案（脊髄損傷）2	5	講義 濱口
11	評価の特徴とADLプログラム立案（RA）1	5	講義 大山
12	評価の特徴とADLプログラム立案（その他疾患）	5	講義 貝淵
13	福祉用具の具体的な応用立案	6	講義 貝淵
14	住環境における調整・改良	7	講義 貝淵

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞	
教科書 (必ず購入する書籍)	日常生活活動（動作）	土屋弘吉、他	日本医薬薬出版	2002年	6650円
	ADLとその周辺	伊藤利之、鎌倉距子	医学書院	1999年	5900円
参考書					
その他の資料	プリント				
【評価方法】 出席、期末試験		【履修上の留意点】			